

令和3年度 第1回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

○知事

- ・他の生徒の意見を画面上で一度に見ることができたり、休んでいる生徒にもオンラインで授業ができるようになり、多面的な授業ができるようになった
- ・タブレットの家庭への持ち帰りを進め、自分の物のようにいつも使うことができる環境を整えていくことが大事。反転授業やアプリを活用しながら、自らの学びを深めることができる

○教育委員

- ・教員が授業に向けて作成した良い教材は積極的に他の教員に共有する方がよい
- ・グループ活動の際の役割の割振りなど、各教員が授業の中で作ったタブレット使用のルールやテンプレートを他の教員に共有することによって、授業の進行がよりスムーズになるのではないか
- ・タブレットを活用して県全体の教育の質を上げていくには、教員自身のICT活用のレベルをさらに向上させていくことが必要
- ・ICT支援員はICTに堪能でない教員にとって助けになっている部分がある。配置されている人数が十分かどうか考える必要があるのではないか

○高志高校・中学校教員

- ・他の生徒の意見等を画面上で共有することができるようになり、リアルタイムでいろいろな意見を聞きながら、自分の考えや文章をブラッシュアップすることができるようになった
- ・生徒の意見の集約、表示、データ処理等にタブレットを活用することにより、授業の時間を効率的に使うことができるようになった
- ・発言に消極的な生徒も画面上でアイデアを出すことができ、生徒全員が授業に参加することができていると感じる
- ・ネットからは様々な情報を入手できるが、中学生だと中身を理解せずに使ってしまうことがある。生徒が内容を理解しないまま授業が進んでいくことがないようにしないといけない
- ・入試やテストの多くはまだ手書きであるため、デジタル(画面上)で終始するのではなく紙に限られた字数で文章を書くスキルもしっかりと授業でも取り入れないといけない